

開催報告

第6回

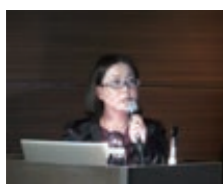
東京女子医科大学病院

医療連携講演会・懇親会

第6回 医療連携講演会・懇親会は「新たな連携をめざして」をテーマに9月28日(木)京王プラザにて開催し、講演では下記の診療科より報告をさせていただきました。



集中治療科 教授 野村 岳志  
3カ所にあったICUを一つに統合し、ICU18床、HCU15床に対し集中治療医6名配置の管理体制の紹介



救命救急センター 教授 矢口 有乃  
24時間365日、重症、重篤な患者さんの受け入れ体制について



総合診療科 教授 川名 正敏  
今年4月より入院診療も開始、複数疾患のある高齢者や診断が定まらない患者さんの対応について

患者様ご紹介の際は  
ファクシミリ診療申込書  
をご活用ください!

医療機関からの診療予約について

FAX 03-5269-7387 (24時間)  
TEL 03-5269-7160

受付時間：平 日 午前9時～午後5時20分  
土曜日 午前9時～午後1時

休 診 日：第3土曜・日曜・祝日、

創立記念日 (12/5)、年末年始 (12/30～1/4)

ファクシミリ診療申込書は当院ホームページ「医療関係者の方へ」よりダウンロードできます。

FAX受信後、当院からの電話にて予約日が決定となります。

※受付時間以降に受信したFAXへのご連絡は翌開院日となります。

※夜間の救急依頼のFAXには対応できませんのでご了承ください。

お電話でも承っておりますが、大変繋がりにくい状況となっております。特に、昼(12時～13時)・夕方(16時以降)は回線が混み合いますので、FAXをご活用ください。

発行：2017年11月20日

編集：東京女子医科大学病院 社会支援部

連絡先：社会支援部 ☎03-3353-8111(代表) 内線20175

## 医療安全コラム&トピックス

医療安全科教授 寺崎 仁

### — 第2回 KYT(危険予知トレーニング) —

危険(Kiken)予知(Yochi)トレーニング(Training)は、日本の産業界で培われた労災事故撲滅に向けた、作業現場における労働安全のための実践活動です。現場の作業員が全員参加することが前提で、「皆で決めたルールは皆で守る」を特徴としています。作業における危険のポイントを皆で指摘し合っ、その危険によって引き起こされる事故を防ぐために、問題解決4ラウンド法で予防対策を樹立します。最終的には、予防対策徹底のための「指差し呼称項目」を設定し、要所所で指差し確認することまで行います。

このKYTですが、作業員自身の安全を守る労災事故防止のための実践活動として、1980年頃から主に製造業や建設業などで盛んに取り入れられましたが、これが医療事故防止、つまり患者の安全を守る手法として医療界に導入され始めたのは2000年に入ってからです。きっかけは、横浜市大附属病院の患者取り違え事故を契機とした、医療事故防止に向けた機運の高まりからでしたが、当初は導入に熱心だった医療界も最近では少し熱が冷めてしまった感じなのは残念です。

しかし、KYT基礎4ラウンド法を医療現場の多職種のスタッフで行うと、かなり質の高いチーム医療研修になることが分かっています。現場スタッフの話し合いを通じて、同じ職種でも人によって危険の見え方が違ったり、職種が異なれば別な視点から再発防止のアプローチが示されたりと、他人の意見を尊重したり職種を超えた視点の違いを知ることができたりします。チーム医療を実践するために必要な要素がちりばめられている、といっても過言ではありません。日本オリジナルのチーム医療研修として、医療界にもっと積極的に取り入れられても良いと思っています。興味のある方は、医療職向けの専門研修を中央労働災害防止協会で行っていますので、ぜひ参加してみることをお勧めします。

#### KYT基礎4ラウンド法

- |        |                   |
|--------|-------------------|
| 第1ラウンド | 現状把握(どんな問題があるか)   |
| 第2ラウンド | 本質追及(これが問題のポイントだ) |
| 第3ラウンド | 対策樹立(あなたならどうする)   |
| 第4ラウンド | 目標設定(私たちはこうする)    |



Tokyo Women's Medical University Hospital

# 女子医大便り



2017年秋冬号



TOPIC 01\_集中治療科の紹介 02\_新任教授挨拶/心臓血管外科の紹介 03\_腎臓内科/糖尿病・代謝内科の紹介 04\_講演会開催報告/医療安全コラム&トピックス

## Intensive Care Unit

## 集中治療部 ICU



### 集中治療科の紹介

集中治療科 教授  
野村 岳志

東京女子医科大学集中治療室(以下ICU)は2017年7月に心臓病センターICU、消・脳(消化器・脳神経外科)ICU、中央ICUの3つのICUの合併移設により、新しく18床の集中治療室(ICU)として多くの重症患者さんの治療にあたっております。患者モニターなども最新の機器を備え、1ベッドあたりの広さも新しい基準に適応し広く、採光の多い明るいICUとなりました。個室も5床備えております。高侵襲の手術をうける患者さんの手術後管理、また治療中に併発した重篤な病態の患者さんの治療など、東京女子医科大学病院の高度医療を期待してこられる患者さんに最善の治療が提供できるように、日々変化する患者さんの病態、治療の方向性を多職種カンファレンス(医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学部、栄養管理部、他のスタッフ)で検討し、コミュニケーションのよい、安全な高度集中治療に取り組んで参ります。



## 新任教授ごあいさつ



心臓血管外科  
教授・講座主任  
新浪 博

この度、心臓血管外科教授・講座主任を  
拝命いたしました。

大学卒業後、本学、順天堂大学で研鑽さ  
せていただいた後に平成 19 年 2 月より  
埼玉医科大学心臓血管外科教授として  
10 年過ごさせていただき、再度本学で  
お世話になることとなりました。『患者  
さまにとって体の負担が少ない低侵襲な  
治療』を常に考え、冠動脈バイパス術に  
おいては約 98%以上がオフポンプバイ  
パス術で行っており、僧帽弁疾患につき  
ましては形成術を主に行っており左開胸  
小切開による MICS 手術を、大動脈弁狭  
窄症に対しては、経カテーテル的大動脈  
弁留置術 (TAVI) を行っております。当  
院は心臓移植実施施設として、心臓移植  
手術も積極的に行っております。日本最  
古の心臓血管外科学教室の伝統を守りつ  
つ、さらに発展させ日本のリーディング  
施設、さらには世界に通用する心臓血管  
外科を構築するべく尽力する所存ござ  
います。どうぞ宜しくお願いします。



## 心臓血管外科

医局長 駒ヶ嶺 正英

昭和 26 年 5 月、本学の榊原 任先生の手によって本  
邦心臓手術第 1 例となる動脈管開存結紮術が行われ、  
続けて昭和 29 年 9 月には低体温法を用いた国内初の開  
心術に成功されました。日本における心臓血管外科の  
歴史はまさにここから始まっており、この伝統および  
経験は現在に至るまで引き継がれ、我々心臓血管外科  
教室の根幹を成しております。当科では新生児から高  
齢者の方までのあらゆる心臓・大血管疾患に対して外  
科治療を行っております。心臓血管外科の手術は患者  
さまの生命予後・QOL に重大なインパクトを与えるた  
め、安全・確実・最善な治療法を実践することを常に  
心がけております。患者さまにとって体の負担が少な  
い低侵襲治療の標準化を進めており、大血管に対する  
血管内治療 (ステントグラフト) や経カテーテル的大  
動脈弁留置術 (TAVI) を導入しております。一方、内  
科的治療の限界に至った重症心不全の患者さまに対し  
ては、植込み型補助人工心臓手術や心臓移植、さら  
には心筋シートを用いた再生治療など本学ならではの  
高度先進医療を積極的に行っております。2017 年 7 月  
より赴任した新浪博教授を中心に、医局員全員が「最  
高の医療を提供する」という信念を持ち、患者さまに寄  
り添った医療を実践していくことをお約束致します。



## 専門診療科をご紹介します

### 腎臓内科

教授・講座主任 新田 孝作

当科は 1979 年に開設され、総勢約 90 名の医局員  
で関連施設を含めた外来、病棟での診療および研究  
を行っています。腎臓内科で主に診療を行う疾患は  
慢性糸球体腎炎、急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候  
群、慢性腎不全 (保存期、透析導入)、急性腎不全、  
遺伝性腎疾患、尿細管間質性腎炎、水・電解質異常、  
膠原病・血管炎・その他の全身疾患に伴う腎疾患、  
高血圧・脂質異常症・高尿酸血症・肥満などの生活  
習慣病、透析困難症や透析患者の合併症と多岐にわ  
たります。

地域の先生方に患者さまをご紹介いただき、お  
かげさまで昨年度は年間入院患者数 678 人、年間腎生  
検患者数 85 人、透析導入患者数 49 人となっております。

2002 年に米国で、慢性腎臓病 (CKD) の概念が提唱  
されてから 15 年が過ぎました。現在、日本の成人の  
約 8 人に 1 人が CKD であるといわれています。そ

### 糖尿病・代謝内科 (糖尿病センター内科)

教授・講座主任 馬場園 哲也

糖尿病は、高血糖が全身にさまざまな合併症をき  
たす病気です。そのためわれわれ糖尿病専門医は、  
単に血糖値を良好にコントロールするだけではなく、  
糖尿病の慢性合併症を予防することを念頭において、  
毎日診療しています。当センターでは、糖尿病性腎症・  
末期腎不全、神経障害、心臓病、末梢動脈疾患・四  
肢壊疽、肥満、脂質異常症、妊娠、小児・ヤング糖尿病、  
高齢糖尿病、遺伝子医学などのサブスペシャリスト



のような多くの CKD 患者さまの診療には皆様の協力が  
不可欠です。今後も地域の先生方と連携して診療を  
行うことで CKD の早期発見、早期治療し、末期腎不  
全予防に取り組んでいきたいと考えております。引き  
続きご協力をお願いいたします。

### 腎臓内科スタッフの専門領域

専門領域はございますが、それぞれの医師がすべての腎疾患に対応いたします。

新田 孝作 (講座主任)	糸球体腎炎、血管石灰化
土谷 健 (教授)	多発性嚢胞腎、腎生理
内田 啓子 (教授)	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群
望月 俊雄 (特任教授) ※1	多発性嚢胞腎
板橋 美津世 (講師)	ANCA 関連血管炎
森山 能仁 (准教授・医局長) ※2	IgA 腎症、糸球体腎炎
片岡 浩史 (特任講師)	多発性嚢胞腎・腎硬化症・肥満関連腎症
井野 文美 (准講師・外来医長)	ネフローゼ症候群

※1 毎週水曜日 午前・午後 PKD 専門外来を行っております。当科では、2003 年  
以降 600 人以上の PKD 患者さま、その内 60 人患者さまにトリアブタン治療  
を行っているという豊富な診療実績があります。

※2 毎週月曜日 午前 火曜日 終日 透析患者さまのお誕生日検診も行っております。

が、個々の患者さんの合併症や病態に対応して診療し  
ています。

加えて当センターには眼科医が所属しており、糖尿  
病網膜症などの眼合併症に対し、内科医と眼科医が  
密に連絡をとって診療にあたっています。さらにメディ  
カルスタッフとして、24 名の日本療養指導士認定機構  
認定療養指導士の資格を持つ看護師、検査技師、管  
理栄養士が、患者さんのセルフケアを支援しています。

かかりつけの先生方と良好な病連携を構築しな  
がら、かつ安全な糖尿病医療を提供できますよう、内  
科および眼科医局員、さらにはメディカルスタッフ一  
同、努力いたす所存です。各方面からのご支援、ご指導、  
ご鞭撻、さらにはご協力を賜りますよう、お願い申し  
上げます。